



大原中学校だより

【大原中学校の教育目標】
「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」



令和4年5月26日
第4号
校長 柴田美由紀

クラス合唱の美しい歌声が校内に響き渡っています。



本年度も4月末からクラス合唱の練習が始まり、毎日帰りの会になると、美しい歌声が校内のあちこちから響き渡っています。その歌声につられてベランダに出ると、まだまだ制限は多いものの、3年生や文化委員会、パートリーダーや音取り係のリードにより、ハーモニーを楽しみながら自主的に取り組む子どもたちの姿があり、感動を覚えます。3年生の合唱練習を1年生が学びに行く取組も行われています。ベランダを使ったり、廊下で向きを変えて歌ったり、予防のための工夫を凝らしながら合唱に取り組む子どもたちの姿から、「先輩から受け継いだ大原中の合唱文化を、自分たちの手でさらに発展させる！」という強い矜持が感じられます。

今年度のブロック色決定!



5月16日(月)お昼休みに、多くの子どもが見守る中、2学年の執行委員の進行で、中庭をはさむベランダにて、今年度のブロック色決定抽選会が盛大に行われました。今年度も「できることを信じて」、「今できること」を見出して、一つ一つ工夫し



ながら行っています。結果、1組:赤ブロック、2組:青ブロック、3組:黄ブロックとなりました。これから、体育大会や文化発表会に向けて、また、日常の学校生活の充実をめざしてのブロック活動に向けて、気持ちを高めることができました。ブロックのつながりや高まりを通して、今年も、たくさんの感動が生まれることを期待しています。

大原中学校「人権を考える日」の学習より ～「大原中学校人権宣言」～

習を行いました。3年生は、「3年生になって、『これまでの自分』『これからの自分』を見つめる」という学習を、学年集会での意見発表という形で行いました。50分間の時間いっぱい、多くの子どもが、自ら手を挙げ、全体の前で堂々と意見を述べていきました。聞く態度も大変素晴らしく、一人ひとりの発表の後には、勇気を称える大きな拍手が鳴り響いていました。大原中学校の最高学年としての自覚

5月23日(月)、全校で「人権を考える日」の学



を共にした凜とした時間であったと感じました。

2年生は、私たちの日常にある固定されがちな「先入観やイメージ」について考える学習を行いました。身近な事例を通して、子ども自身が自らの先入観と向き合い、そのおかしさについて意欲的に見つめ直す姿がありました。

入学して間もない1年生は、「クラスの約束ごとを考えよう」について学習しました。学級委員や班長が中心となって、学級会を進めていきました。どの班も一人一人がしっかりとした意見を持っており、積極的な意見交流を通して、みんなの思いのつまったクラスの約束ごとができ上がりました。

本校には、子どもたちで作上げた「大原中人権宣言」があります。この宣言は、子ども総会議案書にも掲載しており、脈々と本校の文化の柱として受け継がれてきているもので、子どもたちも職員も常に心に刻みながら日々の生活を送っています。宣言には、「1997年(平成9年)10月31日 大原中学校子ども会」と記してあります。今からおよそ25年前に学校生活を送っていた先輩たちが、当時の「いじめ」の問題に正面から向き合い、徹底的に意見を出し合いながら話し合いを重ねてきたものです。自分たちの問題に真剣に向き合い、自分たちで考えぬいた宣言にある五つの「めざす姿」は、すべて特別なことではなく、授業、清掃、合唱、行事等を通して「日常における集団のあり方」を問うものです。

これからも、「大原中の人権文化」を受け継いでいくとともに、今の自分の姿をみつめ、学級集団、学年集団の姿がこの願いに応えるものになっているかを常に問いながら、かけがえのない仲間とともに力を合わせて歩みを進めていきたいと考えます。

5名の教育実習の先生方をお迎えしています。



今年も、5月16日(月)から、教育実習の先生方をお迎えしています。長い方で3週間、短い方で2週間の実習期間となり、実践的指導力を身に付けるために、日々奮闘されています。井樋 玄雪先生(社会科)、靄田 葵先生(保健体育科)、古賀 汐里先生(英語科)、宮崎 知紗先生(社会科)、権藤 明先生(社会科)の5名の先生方です。短い期間ですが、授業をはじめ、朝の会や給食、帰りの会、清掃の指導等学校生活全般において、一生懸命に子どもたちとともに過ごしていただいています。さらには、それらの活動に加え、部活動や毎朝の陸上の練習にも参加していただくなど、実習の日々を充実させるために、積極的に取り組んである姿をみて、私たち自身も学ぶべき点が多くあるように感じます。すてきな先生になられるよう、心から応援しています。

